

## トリックオアトリート！

10月の製作レクはハロウィンが近かった為、かぼちゃの入れ物を作りました。ハロウィンでは死者の魂だけでなく、悪魔などの悪いものも一緒に入り込めます。この悪魔たちを退けるために使われるのが、かの有名なジャック・オー・ランタンです。ランタンを怖い顔に加工し、火を灯すことで魔除けになるとされていました。この習慣がキリスト教とともにアメリカに伝わった際、ランタンがかぼちゃに変わり、このランタンの印象が強かったのか、ハロウィンの代表的な、いわば象徴ともいえる「かぼちゃのランタン」のイメージが定着したそうです。製作では紙コップに折り紙を縦長に切って貼り付けていきました。皆さんの世代だとあまり馴染みのない風習ですが、出来上がったかぼちゃの入れ物は部屋に飾っても可愛く、皆さん喜んで作られていました。



## 年末年始について

当施設では通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・居宅支援事業所は下記の通り年末年始を休業とさせていただきます。ご不便をおかけ致しますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

休業日：令和7年12月31日(水)～  
令和8年1月4日(日)

令和8年1月5日(月)より通常どおり営業致します。

ご入所中のお客様の入浴は下記の通りとなります。

年内最終入浴日：  
12月29日(月)女性  
12月30日(火)男性・女性数名

新年は1月5日(月)より通常の入浴日程となります。  
皆様、良いお年をお迎えください。

## トワーム熊谷 栄養課便り



### タイピーエン(太平燕)

熊本県の郷土料理で、中華風の春雨スープです。明治時代に中国から伝わり、具材に使用されていた扁肉燕(ワンタンの皮)を春雨に代替し、日本向けにアレンジされました。

## 霜月祭

11月の旧暦の呼び名は霜月。デイケアでは毎年、霜月にお祭り『霜月祭』を行っております。今年初めて2日間の霜月祭を行いました。1日目はフォークダンス「さくら」の皆様をお招きして、やさしい音楽と美しい踊りをご披露いただきました。赤いスカートがとても綺麗にヒラヒラゆれて、見ている私達も穏やかで楽しい気持ちになり、誘われて一緒に踊る場面もありました。2日目は縁日です。射的やストラックアウト・ひよこすくいを楽しみ、外では七輪を使つての『焼きマシュマロ』でほっこり日の前で綿菓子を作り、カクテルを飲んで縁日を楽しみました。充実したとても楽しい2日間となり、いつもと違ったデイケアを過ごしました。



11月20日花リハビリ  
11月22日は和太鼓と歌「ゆう」のボランティアで踊りと歌で盛り上がりました。



12月は年忘れトワーム寄席《みやび亭 抜刀さんの落語》 1月は《懐メロ音楽隊 タイムマシン》《紙芝居・手品》等、皆様にお楽しみいただけるレクリエーションを用意しております。

## 施設長 矢島の独り言

前号に続いて税所(さいしょ)敦子(あつこ)さんの話をします。紙面の関係で以下すべて敬称略とします。下田歌子(1854-1936)は1891年九条家のお姫様が、大正天皇のお后と決まって、父上の九条道孝公(1839-1906)からご入内の心得について相談を受け、「宮中にお上がりになってからの心得は沢山ありますが、ただ辛抱の一事につきます。そのためには仏教の信仰が必要です」とお答えしました。当時の女官は殆どが公家出身で、下田歌子と税所敦子(1825-1900)の二人だけが武家出身だったため、他の女官たちから猛烈ないじめを受けていました。それを耐え忍ぶ敦子とは対照的に、歌子は相手に真つ向から立ち向かい騒ぎ立てました。下田歌子ご自身は生涯仏教の信仰はありませんでしたが、税所敦子は幼い頃から福田行誠師の指導で仏教の素養がありました。じつと耐える敦子の姿を見て九条公のお尋ねにこのようにお答えしたのでした。

税所敦子の父上(林篤国)は宮中や京都御所を守る宮侍で、家でもよく歌会を催していました。10歳の時から歌人千種有功(ありこと)に師事していましたが、同門の税所篤之(35歳)から求婚されて1844年に19歳で税所家へ嫁ぎました。篤之は薩摩の家に先妻の子二人を母に託して京都藩邸に出仕していました。5年後に敦子の長女が生まれましたが1852年に篤之が病死したため敦子は長女を連れて京都から鹿児島へ下り、姑と継子二人の世話をしました。この姑が近所で「鬼婆」と評判になるほどきつい方で敦子を虐めました。ある時「わし下の句を作ったよ。上の句をつけてくれや、お前は歌がうまいから」。「鬼婆なりと人は言うらん」これが下の句でした。そうしたらその上に「仏にも似たる心と知らずして」と書きました。これに感動したお母さんは、一変して結構なお方になりました。この頃薩摩の歌人高崎正風と知り合います。やがて敦子の才徳兼備が評判になり藩主島津斉彬の嫡子の教育係に抜擢されます。斉彬亡き後、今度は島津久光に、養女・貞姫の教育係として取り立てられ、近衛家への奥入れに従って京に上り貞姫の老女に用いられます。敦子は貞姫に書道、和歌、『源氏物語』などの古典文学などを教え、これにより敦子の名声は高まり、公家の姫たちも教えを受けに集まりました。その中には後に明治天皇の皇后になる一条美子(はるこ)がいました。

1873年近衛忠房が亡くなり未亡人となった貞姫に従って東京へ移住しました。1875年敦子は美子(はるこ)皇后の希望もあり高崎正風の推薦で宮中へ出仕し、美子皇后から直々に「楓内侍(かえでのないし)」という名前を頂戴しました。16年後の明治24年(敦子66歳)九条節子(さだこ)(貞明皇后)が大正天皇の后に内定して、下田歌子へ九条公爵がご下問になるという頭書のくだりになります。



税所敦子